

12月・教皇さまの
意向のために祈りましょう

- ① 一般の意向：子どもに対する尊敬
- ② 宣教の意向：世の光であるキリスト
- ③ 日本教会の意向：エイズ患者への奉仕

よきおとずれ
CATHOLIC NAGASAKI MONTHLY
カトリック長崎大司教区報

発行所 カトリック長崎大司教区 広報委員会
中 田 輝 次
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869 FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
印刷所 株式会社 藤 木 博 英 社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL 095(821)2146 FAX 095(821)2148

マリア、恐れることは
ない。あなたは神から
恵みをいただいた。
ルカ1章30節

死者の月

浦上教会で初の
教区主催追悼ミサ



11月1日、高見三明大司教の意向を具体化して、午後3時から浦上教会で長崎教区のすべての司教・司祭・修道者・信徒のため、教区主催の追悼ミサが行われた。
大司教は説教の冒頭に、前任者である島本 要大司教の1周年忌のミサ以降は、公の追悼ミサを呼び掛けて下さっていないことがいつも気に掛かっていたことを率直に話した。
また島本大司教以前のすべての教区長、特に里脇枢機卿、山口大司教、早坂司教ら邦人司教のためにも、公式に追悼のミサを下さげたいと思っていたことにも触れた。
また大司教は、亡くなった人々、特に煉獄にある人々のために祈り、犠牲を下さげ、免償を得ることは、教会が勧めていることでもあり、わたしたちがしなければならなかった。

日本カトリック医療団体協議会
～長崎で第1回全国大会～

第1回全国大会を長崎市内のホテルで開催した(写真)。チームは「人に仕える医療」。全国から約250人が参加した。
1日目、森 巨・元東京大



の病理医が考えた『いのち』とは?、山下俊一・長崎大学大学院医歯薬学総合研究科長(原爆被災と世界の被ばく医療)の

2日目、山口道孝・横浜教区司祭が「アジアの貧困、抑圧に苦しむ人々」について講演。路上生活者とのかわりを

長崎教区
聖職者追悼ミサ
11月10日、恒例の聖職者のための追悼ミサが、雨のため通常の赤城聖職者墓地から大司教館に会場を変更して行われた。
場所の変更にも関わらず、長崎北・中・南地区の司祭と、修道者・信徒が、大司教館のチャペルに集まった。
ミサの主司式を務めた高見大司教は、説教の中で、司教・司祭に神の言葉を伝え、秘跡を授け、人々の祈りを父なる神に下さげ、交わり



と喜びの共同体をつくり上げる崇高な使命があることをまず強調した。
またおの司祭は、次の世代を担う司祭を、少なくとも1人は送り出すことを考えなければならぬと励ました。
集まった修道者、信徒に対しては、現在の司祭たちに出るよう祈り、機会あるたびに声をかけ、ほしいと協力をお願いした。
亡くなられた聖職者のために、次の司祭にも恵まれるように、心を一つにして祈った。

「カトリック教会の
諸宗教対話の手引き
―実践Q&A―」
シンポジウム



11月14日、日本カトリック司教協議会諸宗教部門(責任司教 大塚喜直・京都教区司教)主催のシンポジウムがカトリックセンターで行われた。これは同部門が編集した「カトリック教会の諸宗教対話の手引き―実践Q&A―」の出版を記念し、諸宗教対話への関心を広げ、諸宗教対話の意義を理解してもらうため企画されたもの。
第一部では同部門の委員から、諸宗教対話の心(デ・ジョルジ・マリア・修道女、マリア布教修道女会、対話の実践(園田善昭師、コンベンツアル聖フランシスコ修道会)

第5回アジアパシフィック
ライオンズ報告



10月20日から28日まで第5回ASIPA(アジアパシフィックライオンズ)総会がフィリピンのダバオにて開催された。これはアジアの司教団(FABC)の総意で、3年ごとにアジアの国々で開催されることになっている。第2バチカン公会議の精神を汲んだ教会共同体づくりとその活性化に際して、各国の教会

総会では、各国の取り組みの状況を報告し合い、今後の取り組みに生かす合うようにプログラムが組まれていた。
14カ国のアジアの諸教会から、20人の司教たちが出席し、ドイツ、イギリス、スイスからも11人が参加して、総勢228人を数えた。日本からは札幌、東京、高松、福岡、長崎から計10人が参加した。今回は、ダバオで取り組まれた小共同体の歴史を学びながら、毎日小共同体のプログラム(7ステップ、アモスプログラム)を利用して分団会に分かれて今後の取り組みが話し合われた。土・日には、現状視察を兼ねて参加者が14小教区に出かけ、ホームステイをして現地の司祭や信徒と交流を図りながら教会の様子を研修した。毎日のミサは各国が担当し、そのユニークな典礼色豊かなミサは参加者同士の兄弟的交わりを一層深めた。
散会の際、参加者は互いにアドレスを交換しながら、新たな友との別れを惜しむとともに、小共同体のプログラムの中に秘められている豊かな教会共同体づくりの推進に向けて新たな決意を抱いた。次回はぜひ日本からも司教の参加を希望したいと願った。(中浜敏司)

来春の平和巡礼を
前に記者会見



10月28日、長崎教区は大司教館に報道関係者を招き、来春(2010年4月20日～5月1日)にイタリアとスペインを平和巡礼する計画を発表した。
巡礼は「子どもにも神聖な巡礼を担がせてほしい」「神社仏閣を訪れるときは、どういう心構えと態度が必要なのか」「自然環境保護のために、ほかの宗教の人々との間で協力できるか」といった日常における疑問に答える形式でまとめられている。定価860円(税別)。
「被爆マリア像」は、1985年にバチカンで、2000年にはベラルーシで展示されたことがあり、海外展示は今回が3度目となる。

菊地新潟司教
札幌教区管理者に任命

は、札幌教区のベトロ口地主敏夫司教から提出されていた、定年による辞任願いを受理し、新潟教区

この巡礼では、浦上教会に大切に保管されている「被爆マリア像」が現地に運ばれ、ナチス・ドイツ軍による無差別爆撃を受けたスペインのゲルニカでの追悼式典会場で展示される。バチカンでは、教皇ベネディクト16世と謁見する予定。巡礼は一般にも広く呼びかける。合わせて「長崎の証言の会」の廣瀬方人氏と音楽家のドウ・マルシェの2人も同行し、平和を訴える。
「被爆マリア像」は、1985年にバチカンで、2000年にはベラルーシで展示されたことがあり、海外展示は今回が3度目となる。

今、長崎教区にも「窓」を意識する信徒が育ってきた。このような信徒こそ、時代が求める信徒ではないだろうか。
クリスマスに今年も1つ願うとしたら、教区民すべてのために「広々とした窓」を神にお願いしたい。十分に外光の恩恵を受けることができ、外の世界がよく見渡せて、家の中の温かい雰囲気から外からもよく見える広々とした窓だ。▼外国語の習得を、「窓」に例えることがある。外国語を習得しなくても、それだけで1つの完結した世界であり、安全で快適である。けれども、それは窓のない部屋のようなもので、外の世界を知ることのない、外の世界と部屋の中を比べることもない。外を知るための窓、つまり外国語を習得すれば、もつと世界が広がるという考えである。▼長崎教区のカトリック信者は、ほとんど例外なく、だれかに教えるを受け、その当時の教えが信仰の土台となつて今に至っている。土台は堅固なものをいただいていて暮らしている場所は、窓のない家になつていないだろうか。「ミサ拝聴」をたたき込まれ、ミサは拝むもので、自分のような者が聖書朗読や共同祈願にかかわるなどともないと言っている人々が、窓から外を眺めれば、隣の国、隣の教区、隣の小教区で老若男女、誰もが積極的に典礼を分担しているかもしれないのに。「窓」が外の刺激を吸収し、外に情報を伝える。今、長崎教区にも「窓」を意識する信徒が育ってきた。このような信徒こそ、時代が求める信徒ではないだろうか。

司祭半日研修会

11月12日午後、大司教館で司祭のための研修会が開かれた。悪天候で上五島・下五島地区が出席できなかったが、参加した司祭たちは熱心に研修を受けた。



石村氏

石村榮一氏による司祭各人の人権意識を見直すための講話から始まった。人権啓発の必要性は日増しに高まっている。かつては「自分の身は自分で守る」という「心掛け」が強調されていたのが、次第に「人権侵害は犯罪」と捉え、社会の「システム」で人権を守ろうとの

意識に変わり、今では「心掛けもシステムも必要」という考え方も出てきていることを具体例で説明を受けた。

独善的な視点に立つのではなく、多様な視点に立つて、教会内での意見に柔軟に耳を傾ける。ただ思いやるだけでなく、「思いを巡らす」姿勢を石村氏は司祭に求めた。

次に、新型インフルエンザへの効果的な対処法について、長崎保健医療推進センターの山崎浩則氏がスライドを交えて説明した。インフルエンザは新型も季節性のもも「飛沫感染」であり、感染していない人は「しぶき」を吸い込むように気



山崎氏

を付けることと、しっかりとした手洗い、発熱や感染の疑いのある人はくしゃみなどでしぶきを飛ばさないように不織布製のマスクをするなどの指導を受けた。

多くの司祭が集まっている機会でもあったので、世界遺産の暫定リストに挙げられている教会の白アリ対策について、関係者から説明を受けた。

長崎県はそのための予算を計上しており、対策を受ける申請をすれば教会側の負担は5%で済むことになる。

最後に、かねてから懸案となっていたカトリックセンターの運営について、今後の方向性をどのようにするか、討議した。高見大司教がカトリックセンターの設立の経緯を述べ、広く司祭たちの意見を聞き、一番望ましい形にするため、意見が交わされた。

浦上・献堂50周年ミサと祝賀会で祝う

原爆で破壊された浦上教会が再建され、聖別式を迎えたのは1959年(昭和34)11月1日。教皇庁公使フルステンベルグ大司教の司式のもと約3千人が参列したという。それから50年、11月8日(日)9時半から、浦上教会献堂50周年記念ミサが、多くの信徒が参加する中でささげられた。

小島 栄主任神父は「50年前の11月1日諸聖人の祝日に献堂の祈りをささげた。我々も先祖に倣い、神の子として共同体が一つになって信仰の道を歩もう」と論じた。

翌9日(月)は午後6時から「献堂50周年祝賀会」と、「お帰りのなさい」の合言葉で毎年恒例の「浦上出身聖職者との集い」が、高見大司教をはじめ浦上歴代主任司祭・



出身司祭17人に大勢の信徒が参加して盛大に開催された(写真)。

始めの祈りに続いて山田評議会議長の開会あいさつ、司祭叙階金祝・銀祝3人の神父さまの紹介と記念品贈呈が行われた。高見大司教も、献堂までの山口大司教の努力に

カトリック通信講座のご案内

わかりやすく書かれたテキストを読み、解答はがきの設問(3~4問)に答えを書き込み返送する講座です。さまざまな理由で教会に行くことができない方や、受洗後、より学習を深めたい方に最適です。

全7講座:	
T001 キリスト教とは	T002 聖書入門〔I〕
T003 キリスト教入門	T004 神・発見の手引
T005 聖書入門〔II〕	T006 幸せな結婚
T007 生きること・死ぬこと	

受講料: T001~T004 4,500円(教材費・税込)
T005~T007 5,000円(教材費・税込)

お申し込み方法: 郵便振替用紙に講座名・講座番号(T001~T007)をご記入の上、下記にお振り込みください。

振替口座番号: 00170-2-84745
加入者名: オリエンス宗教研究所

お問い合わせ・お申し込み
オリエンス宗教研究所 カトリック通信講座
〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5
Tel: 03-3322-7601 Fax: 03-3325-5322

脚本・監督 シグニス・ジャパン会長

主催 映画「愛の鉄道」上映委員会、長崎県立西高等学校同窓会有志他

後援 日本カトリックメディア協議会(シグニス・ジャパン)他

ながさき巡礼月間

【巡礼ウォーク・土曜日12時半集合】12月5日 県庁前
12月12日(城山教会)
12月19日(西坂公園)【講演とミサ・日曜日13時講演、14時半ミサ】
12月6日(中町教会)
12月13日(城山教会)
12月20日(大浦教会)

▼イエズス会立山修道院お知らせ▼
●祈りの一日
①12月7日(月) ②12月21日(月) ③2010年1月4日(月) 9時50分~15時
●ともに祈る日々
月5日(土)~6日(日)
月19日(土)~20日(日)
月23日(水)~25日(金) ④12月29日(火)~10年1月3日(日)
⑤10年1月9日(土)~11日(月) 初日17時~最終日15時
TEL 095(821)4577

平成22年度 生徒募集

■中学入試 一次入試 12月13日(日) 二次入試 1月31日(日)	■高校入試 特 別 入 試 1月13日(水) 一 般 一 次 入 試 1月27日(水) 一 般 二 次 入 試 3月18日(木)
---	--

長崎南山 中学校 高等学校
TEL 095-844-1572
URL <http://www.n-nanzan.ed.jp/>

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

たつみ産業株式会社
西田商事株式会社

代表取締役 ミカエル 西田 寛己
本社 〒857-1166 佐世保市本風町1468番地
TEL (0956) 31-8268

司祭叙階50周年になるので、司祭年連載企画に一筆書くことになりました。

昭和16年に始まった第2次世界大戦のころ小学生だったわたしにとってお国のために尽くすことは最高のものと思っていました。兄はすでに海軍の航空兵であったので、自分も少年航空兵に志願するつもりでした。

ところが昭和20年8月15日、戦争は終わりました。目標を見失っていたわたしに、主任司祭は神学校へ行きなさいと勧められました。戦争中航空兵だった兄は台湾沖で戦死しましたが、もう1人の兄が聖母の騎士の大神学生で、自分のところに来

るように言われ、昭和21年4月聖母の騎士中学に入學しました。

それから13年、小神、修練、大神学校に学び、昭和34年3月司祭に叙階されました。最初の任地は母校の聖母の騎士学園

などを務め、東京では幼稚園の仕事数年間務め、長崎へ帰ってきました。

その間思い出になることはいろいろありますが、中でも故ヨハネ・パウロ2世教皇さまを聖母の騎士修道院へお迎えする準備でした。

コルベ神父のおかげで列福式を司式してくださったパウロ6世教皇さま、列聖式を行ってくださったヨハネ・パウロ2世教皇さまにもお会いすることができたことは、わたしの一生の思い出です。また、コルベ神父が5年間宣教教生活を送った本河内の地に約30年間住むことができたことも大きなお恵みだと思います。

しかし、偉大な聖者の後に続くものとしての心構えの足りなさを反省しているところです。聖人の模範に倣いたいと思

司祭年 連載企画 「司祭が司祭であるために」⑥ 目標が消えて 神学校へ 濱田 盛雄



でした。それと同時に、毎日曜日には中町教会の助任司祭の役を務めながら、長崎教区の先輩司祭方の仲間に入れていただきました。その後本河内教会の主任司祭、修道院長、修道会本部の役職

はどこにあるのでしょうか。信徒の皆さんには司祭たちのために祈ってほしい、司祭たちには聖ヴィアンネーの生き方、精神に近づくよう願っておられるのではないのでしょうか。

ある先輩司祭は聖ヴィアンネーの言葉を次のように話してくれました。結びにします。

一、主任司祭が不熱心であればその信者たちには悪人もいます。

二、熱心であれば信者たちは普通。

三、聖人であれば信者たちは熱心。

耳の痛い言葉ですが、すべての司祭が聖ヴィアンネーの模範に倣いたいものです。

(東長崎教会)

準備した。

コルベ神父のおかげで列福式を司式してくださったパウロ6世教皇さま、列聖式を行ってくださったヨハネ・パウロ2世教皇さまにもお会いすることができたことは、わたしの一生の思い出です。また、コルベ神父が5年間宣教教生活を送った本河内の地に約30年間住むことができたことも大きなお恵みだと思います。

しかし、偉大な聖者の後に続くものとしての心構えの足りなさを反省しているところです。聖人の模範に倣いたいと思

松浦悟郎司教を招き「福音化推進部 合同研修会」

教区福音化推進部(担当部長・中村 満師)が11月8日、松浦悟郎大阪教区補佐司教を招いて、午後3時から大司教館で合同研修会を開いた。

大阪教区で展開されている社会活動「シナピス」(ラテン語で「からし種」の意味)の目覚ましい働きを、松浦司教から学んだ。教会は本質的に社会と共に歩む存在であるか

来年1月に開催

「豪日に架けるー愛の鉄道」(文部科学省選定)上映と新刊出版「サムライのように」記念講演

日時 平成22年1月11日(月・祭) 13時~17時

場所 「メルカチさま」長崎市築町3番18号

講演 パウロ・グリーン神父(永井隆博士物語ー長崎の歌著作者)

千葉茂樹氏(愛の鉄道)

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

(医) 外尾内科医院

院長 ヘトロ 外尾 明利
〒857-1152 佐世保市黒髪町34-4
TEL 0956-33-5557

墓地改修・新設 個人のご相談も承ります

実績 城山教会墓地 飽の浦教会墓地
浜串教会墓地 青砂ヶ浦教会墓地 他 多数

(有)長崎大理石 社長 ヨハネ 濱本直行
本社 長崎市つづじが丘5-1-15 (TEL)095-839-0374
加工工場 諫早中核工業団地

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送も致します)

24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00

水浦運送
シモン 水浦 幹雄
長崎市上野町12-3
TEL(095)(代)847-7151
844-1420

貨物保険有り
・一般引越
・荒ゴミ捨て
・学生引越
・小荷物
・遠距離
・ピアノ運搬

紐差教会献堂80周年を祝う

11月3日、同教会出身の糸永真一名司教(鹿児島教区)司式のもと、献堂80周年と大山悟師(サン・スルピス司教)司祭叙階25周年の記念ミサが地元出身の司祭団、修道女、歴代司祭、地区司祭団ら約70人と200人近い信徒が参列してさ



日本初の鉄筋教会

加えて建て替えることになり、1929年(昭和4)、鉄川組によりロマネスク様式の教会としては日本で最初の鉄筋コンクリートで建設され完成した。

大司教のメッセージも朗読された

殉教400年を記念してチースリク神父が西玄可と家族の殉教を調査した記録の復刻版も発行され、ミサの中で奉納された。溝部司教は西玄可家族を過去の思い出とせず現在に生かすようにと励ました。殉教祭には教区内外の巡礼者など400余人が集い、祈りをささげた。

黒瀬の辻殉教400年祭

11月14日は福者ガスバル西玄可と妻子が生月黒瀬の辻で殉教して400年を迎える。これを記念して10月31日平戸市主催のシンポジウム「生月の殉教者と世界遺産」が生

月町総合開発センターで行われ、長崎国際大学・立平進、平戸文化遺産課・萩原博文、カクレキリシタン親父役・船原正司、生月町博物館島の館学芸員・中園成生各氏、カトリックは溝部脩司教、古巣 馨神父が登壇した。

開式には純心中学生の合唱。コレジオの神学生、市民ら300余人が「殉教」と「遺産」、「文化」と「教育」について理解を深めた。ライトアップされた黒瀬の辻殉教碑の

地下聖堂では、12時間の聖体礼拝が行われ、礼拝者(延べ120人超)が絶えなかった。純心聖母会の志願生は徹夜礼拝に参加し、信者家庭に民泊、交流を持った。翌11月1日は、殉教地のミニ巡礼。午後は溝部司教の司式で記念ミサ。開祭には列福記念植樹式があり、高見

大司教のメッセージも朗読された。殉教400年を記念してチースリク神父が西玄可と家族の殉教を調査した記録の復刻版も発行され、ミサの中で奉納された。溝部司教は西玄可家族を過去の思い出とせず現在に生かすようにと励ました。殉教祭には教区内外の巡礼者など400余人が集い、祈りをささげた。

半屋の窄殉教祭 久賀島(五島)

10月25日久賀島で半屋の窄殉教祭が行われ、遠くは長崎、諫早からの参加者も含め300余人が



だ。わたしたちも一人一人がキリストの証し人として、日々をささげることを胸に、それぞれの信仰生活の場に派遣された。(4面に説教要旨掲載)

横瀬浦巡礼地へ(みことば友の会)

「みことば友の会」(指導司祭・中浜敬司師)は10月25日(日)「横瀬浦巡礼地」の巡礼に出かけた。参加者は総勢23人。



ロザリオ祭(長崎・本河内)

10月最後の日曜日、本河内(聖母の騎士)において恒例のロザリオ祭が行われ、約2000人の信徒修道者がルルドの森に集い、ロザリオの祈りとミサがささげられた。

第124回クルシリヨ

10月31日(土)夕方から11月3日(火)まで、イエズス会立山修道院で中村倫明師指導のもとクルシリヨが開催、13小教区23人(男性8・女性14・修道女1)が参加した。参加者は聖霊の働きによって、共に福音宣教に向かう決意を新たに



浦上1、稲佐2、鮑の滑石1、黒崎2、香焼1、植松3、船越1、大野1、仲知1、米山1、奈留3、シヨファイユの幼きイエズス修道会修道女1

上五島地区合同「堅信式」

11月8日午後2時から、青方教会にて高見大司教司式のもと、中学2年生60人、成人4人の計64人が「堅信の秘跡」を

巡礼地の寄贈者・土井宣博さんも行動を共にした。1週間前に祝福式を済ませたばかりの「横瀬浦巡礼地」でミサをささげた後、日本26聖人記念館館長のデ・ルカ・レンゾ師の案内で横瀬浦公園の史跡巡りをし、午後は中浦ジュリアン記念公園、さらに七ツ釜港や南蛮寺

者たちがささげた祈りが、ルルドの土や草木にも深く染み込み、聖なる静けさを醸し出している。当日は各地の行事とかち合い、例年より少ない人数ではあったが、賛美の声に力強さが感じられた集いだった。

10月10日、第35回カトリック正義と平和全国集会さいたま大会が、埼玉県・大宮教会などにて開催された。全国から集まった500人以上の参加者が、現代社会の諸問題に教会としてどう取り組んでいくべきかを学び、議論を交わした。講演や現地学習などを通して今大会で重要視されたのは、キリスト者として世の中に流されず進むべき道をしつかりと見据えること、違う思想を

跡といわれる「寺屋敷跡」そして、「住吉神社」と呼ばれている小佐々氏の墓を訪ねた。七ツ釜港はジュリアンの父・小佐々甚五郎(中浦城主)の小佐々水軍の船だまりで、当時は貿易港としても栄えた港。住吉神社にはキリシタン墓碑2基が今も地元の人々に大事に祭られている。

10月17日、外海カリタス診療所にて帰天。93歳。長崎市新牧野町に生まれ、昭和20年牧野修道院入会。昭和45年出津修道院と合併。



マリア・マグダレナ 山口シヅ修道女 (お告げのマリア修道会)



洗礼者ヨハネ 中村啓二さん (中村倫明師代表)

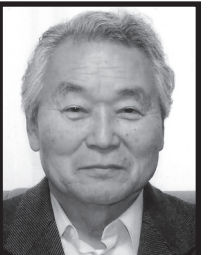
毎年1回ミサが行われる、上五島の若松島にある「キリシタン洞窟ミサ」は、10月24日(土)予定されていたが、海上のしけによる上陸困難との判断により、土井ノ浦教会(松永正勝主任司祭)でミサが行われた。

ミサ後、信徒が用意した手料理をいただき、よもやま話を花を咲かせながら、洞窟でのミサがで

授かり、聖霊の7つのたまものをいただいた。新型インフルエンザ流行の中、長い間、準備勉強してきた受堅者には幸いにかかった者がおら

ず、当日も全員がマスク姿で参加、ひと安心の中、無事に終えることができた。堅信の秘跡を受けた彼らがキリストの新しい兵士としての使命のう

11月5日死去、7日長与教会で葬儀・告別式を行う。1950年被爆の余韻をひく長崎に何か考えたいと故片岡弥吉氏に相談、その助言が「長崎の鐘」を生む。ソ連、中国、米国、今年は浦上教会の鐘のレプリカを長崎大学医学部有志の依頼で製作、年内にもスイスにある博物館に届けられるなど「長崎の鐘」製作に生涯をかける。75歳。



ミカエル 岩永正高さん (洞窟製作所代表)



に、新しい人となった者としてこれからの一人一人の信仰生活を力強く生かす、教会を支えていってほしい。



自然が豊かで美しい。人はみな親切、笑顔、清潔、それに生活習慣の違いは大きくしばらくは驚きの連続だった。来日して早28年、4分の1世紀を超える。言葉は難しいことは別にして日常会話には不自由はしない。ポーランドをたつときの年齢は28歳だった。

子修道会だけで、希望をかなえるには「アフリカ」へ行かなければならないとの話に随分迷った末、ポーランドをたつときの年齢は28歳だった。

「聖母の騎士修道女」



性薬剤師が何の前触れもなくお札のため来崎、驚かされる。メダイは修道女が旅行社の社員に世話になったお札にあげたもので、友人の薬剤師の手

に渡り、彼は日常首につけていたと話す。修道女は訪ねてきた薬剤師の話を長上にあげ、車で市内の巡礼地を案内した。浦上教会で26聖人記念館、国宝大浦天主堂、コルベ館など回った。薬剤師は長崎の殉教史に触れて心を強く打たれたのか、現在カトリックの勉強を始めたという。ポロランドには82歳の父、弟と妹が健在、日本での活躍を励ます。

